

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	ドイツ環境ゼミ:環境マインドをもったグローバル人材育成のためのドイツ視察研修旅行(語学研修+環境関連視察)	
学部・研究科名	全学教育機構	
実施期間	2015年2月14日～3月9日	
研修先(国・都市・施設名)	ドイツ(レーゲンスブルク・ハノーファー他)	
参加学生数	8名	知の森基金からの支援者 8名
プログラム概要	2/14:羽田⇒ミュンヘン 2/15:ミュンヘン⇒レーゲンスブルク 2/16～2/27:語学研修(レーゲンスブルク、ホリツォンテ語学学校) 2/28～3/2:個人視察(個人のテーマに従って、ドイツ国内を視察旅行) 3/4～3/6:団体視察(ハノーファーにおいて、環境関連施設の視察) 3/7:ハノーファー⇒フランクフルト 3/8-9:フランクフルト⇒羽田	

実施状況・成果

1. 語学研修(2週間の語学コース)

レーゲンスブルクにあるホリツォンテ語学学校にて、2週間のスタンダード・コースに参加。各自の語学能力に従ったクラスに分かれ、実践的な語学力の向上につとめる。期間中は、ホームステイが学校の寮に滞在した。
空き時間や週末は、各自のテーマに従って、レーゲンスブルク市内・近郊や、他の都市に足を延ばし、部分的には教員が引率して環境関連施設や博物館などを視察・見学した。

2. 個人研修

各自のテーマに従って出発前に(指導を受けつつ)作成した計画に従い、ドイツ国内を回って視察を行った。

3. 団体研修(ハノーファー市内)

本学の卒業生でもあり、ドイツ在住で主に環境をテーマとしたジャーナリストとして活動している田口理穂氏と、ハノーファー・ライプニッツ大学のフ란ツ・レンツ教授のサポートによって、ハノーファー市内の各所を視察した。訪問したのは、次の各所:

- 3/4: 気候保護エージェント、ハノーファー市気候保護局、Humus Naturkost (Bio製品マーケット)
- 3/5: AHAハノーファー清掃公社、ライプニッツ・ハノーファー大学(レンツ教授の講義を含む)、学生との交流会
- 3/6: 学校生物センター(授業を受講)、エネルギーの歴史博物館

なお参加学生は、6月末にドイツ語技能検定試験を受験、7月4日に学内で開催される公開報告会にて視察結果を報告し、その後最終レポートを提出し、成績の評価を受ける。

学生の声①-人文学部 学生

語学研修では、毎日ドイツ語しか使わなかったもので、日本で学習するよりも語学スキルの定着が格段に速いことを実感した。また、ドイツ語を通じて、様々な国から来たクラスメートの文化に触れることもできた。店や視察先でドイツ語を話すと、とても嬉しそうに言葉が返ってくる。明らかにトーンが違っていた。言葉が違うだけで対応がこうも変わるのかと驚きつつ、ドイツ語を学んでいて良かったと思った。団体研修では、個人ではなかなか行くことのできない施設を訪問でき、環境に関する話を聞くことができたことが、このゼミで最も有益なことであった。忙しい中、他国の学生のために時間をとって資料を作り、質問にも真剣に対応してもらえる機会はめったにない。それぞれの場所で内容の濃い話を聞くことができ、とても良かった。

学生の声②-農学部 学生

語学研修期間中にホームステイをしたことで、日本とは異なる価値観や生活を知ることができたのはとても良い経験であった。同時に、環境先進国であるドイツの実社会を肌で感じることができ、とても良い機会であった。日常に環境意識が浸透しているドイツで、短期間でも生活することで、自分は環境を文字としてとらえていたことに気づいた。また、個人研修で訪問する企業とのやりとりを外国で行うことで、外国語の勉強だけでなく、海外におけるマナーも学ぶことができた。「環境」という、どの学部にも関連することのできるテーマ設定によって、幅広いことを学ぶことができ、視野が大きく広がったと感じている。「ドイツ環境ゼミ」という授業で行くことができたの幸運であった。ドイツの実社会を肌で感じることができ、とても良い機会であった。

ハノーファーの「気候エージェント」で
レクチャーを受ける



120年以上の歴史のある
ハノーファー「学校生物センター」での授業風景

